



平成30年1月号

おたしょうがっこうとしょじつ
太田小学校図書室

★ みなさん、冬休みに借りた本は、返しましたか？ 今までに借りた本で、まだ家に

おたしょうがっこうほんがあつたら、かならず返しましょう。

☆ 1月のおはなしかいのおしらせ ☆

1月26日(金)

8:15~8:30

礼法室 雪渡り

雪がすっかり凍って大理石よりも堅くなり、四郎とかん子とは野原に出ました。いつもは歩けない黍の畑の中でも、すすきで一杯だった野原の上でも、すきな方へどこ迄も行けるのです。そこに、きつねの子が出てきました。

2階多目的スペース 手ぶくろを買いに

毛糸の手袋を買ってやろうと思った母狐は、子狐の片手を人の手にかえ、町へ送り出しました。

1階つままルーム 狐

月夜の晩、文六が下駄を買いにいくと、お婆さんが「晩に新しい下駄をおろすと、狐がつく」といいました。下駄屋のお婆さんがおまじないをしてくれましたが、文六は本当に狐がつくのでは…と心配でたまりません。

としょじつ 図書室 ごんぎつね

兵十が病気の母親のために取ったうなぎを、いたずらして奪ってしまったキツネのごん。せめてものつぐないにとこっそり薬や松茸を届け続けますが、その心は兵十に伝わらないまま悲しい結末を迎えます。



おおとものやかもち えちゅうまんよう 大伴家持と越中万葉

★越中万葉とは？

万葉集の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1260年前、越中の守(長官)として、富山県に5年間赴任しました。その間に、越中の自然と風土のすばらしさを歌い223首もの歌を残しました。この家持の歌を中心とした337首を「越中万葉」とよびならわしています。奈良時代の越中国の国庁は伏木の勝興寺の地にあったと伝えられていま

春の苑 紅にほふ

春の苑/紅にほふ/桃の花/下照る道に/出で立つ娘子。これは、万葉集の編纂で有名な大伴家持がつくった歌です。彼がすごした越中(富山県)での5年間を歌とともにたどっていきます。絵はブンダバーや精霊の守り人の挿絵を描いた高岡出身の佐竹美保さんが描いています。越中万葉について知りたい人は、まずはこの絵本からはじめましょう。



大伴家持の生涯

氷見市出身の山下泰文さんが時代考証のもとで漫画という特徴をいかして波乱に満ちた家持の生涯を躍動感あふれる物語にまとめています。難しいと思われがちな万葉集を身近なものにしています。



高岡と万葉

万葉のふるさと高岡を家持の歌とともに見直し、はるか昔のようすをしのびながら、万葉の世界を味わってみましょう。

いまドキ語訳越中万葉

大伴家持が越中に赴任していた際作った歌を中心とした短歌の現代語訳&エッセイです。



越の国から

大伴家持が感動した越中の風物の写真が、歌とともに構成されてます。



絵草紙越中の家持

越中の風土と万葉人の暮らしを現代風に再現して、読者を古代へと誘ってくれます。

